

2022 年度第 2 回浜松市 “やらまいか” 総合戦略推進会議  
議事録

- 1 日 時 2023 年 2 月 24 日（金）10:00～12:00
- 2 場 所 本館 5 階 庁議室
- 3 出席者 委員 12 名  
（秋元健一委員、笹原恵委員、小林淑恵委員、早野亜希子委員、鈴木真由美委員、藤崎淳委員、大場司委員（オンライン）、伊藤充宏委員、小名木秀雄委員、小田切克子委員、鎌田裕子委員及び 浜松市長（座長））  
事務局 4 人  
（企画調整部長、企画課長、産業部観光・シティプロモーション課長、企画課長補佐）
- 4 傍聴者 オンライン配信、報道関係者：1 名
- 5 概 要 以下のとおり

1 大河ドラマを活用した地方創生（1）どうする家康浜松大河ドラマ館 現地視察

座長を除く、現地出席委員 10 名がどうする家康浜松大河ドラマ館を現地視察（10:00～11:00）

1 大河ドラマを活用した地方創生（2）大河ドラマ「どうする家康」の活用について

（事務局による司会進行）

□市長挨拶

（市長）

第 2 回浜松市 “やらまいか” 総合戦略推進会議に、委員の皆さまにはご多用の中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。先ほど大河ドラマ館をご視察いただいたということですが、おかげさまでプレオープン中ですが、多くの方がご来場いただいております。上々の滑り出しではないかと思えます。

今回の大河ドラマは、すでにご覧になっていただいている方はたくさんいらっしゃると思いますが、家康公の若い頃は三河の小国の大名で、織田、今川、武田といった大名に翻弄されながら、数々の苦難を乗り越えて、まさに毎回「どうする」という試練をくぐりながら、やがて大きな大名に成長し、天下を統一するという奇跡と希望の物語です。まさに浜松時代の家康公に焦点が当たるということでして、3 月ごろに舞台が浜松となるということですが、最初のハイライトである三方ヶ原の戦いは浜松に由来からの最初の大きな試練でしたし、織田信長公に命じられて、奥さまと長男を殺害しなければいけないというのもこの浜松時代ですし、信長公が本能寺で明智光秀に殺されて、その難を逃れるために伊賀を越えて来るという伊賀越えも浜松時代ですし、最後の小牧・長久手の戦いで堂々と豊臣秀吉公と張り合って、秀吉公に次ぐ戦国大名第 2 の地位を固めたのが浜松時代の最後です。

こうして見ると、今回のドラマのメイン舞台は浜松だということにして、ぜひこのチャンスを生かしていきたいと考えております。私どもは、かねてよりこの徳川家康公の飛躍と浜松のお城「出世城」などを活用して「出世の街・浜松」というプロモーションをずっと続けてまいりましたけれども、これが今回の大河ドラマで、大きく全国に PR ができる大チャンスがやってきたということです。アフターコロナに向かう大事な 1 年でございますので、ぜひ大河ドラマを活用して、地域経済活性化に向けた起爆

剤にしていきたいと思っております。本日はこの「大河ドラマどうする家康」をいかに地域活性化、地域振興に活用するかということで、皆さまからいろいろ忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 1 大河ドラマを活用した地方創生（2）大河ドラマ「どうする家康」の活用について

（事務局から資料に基づき説明）

### ◆大河ドラマ「どうする家康」の活用について

□意見交換

（秋元健一委員）

今日はありがとうございました。改めてドラマ館の中で展開されている楽しさに感動している次第ですが、中でも歴代の家康公を大河ドラマで演じてきた人たちを見てきたのですが、あの中に郷ひろみさんがいたということについてはびっくりしました。当時たぶん33、34歳の郷ひろみさんを大河ドラマ「信長」で使っていたというのを見まして、当時からイケメンの人たちを活用しようという動きがあったんだなのを改めて思いました。また、そういう意味でも、今回もジャニーズさんを使っているというNHKさんの熱い思いが伝わってきましたし、まさに鈴木市長がお作りいただいた「出世の街」という力強い浜松を象徴する言葉が、表に出たということも感じております。

この千載一遇のチャンス、家康が育った街ということで、ここに来ると育つとか、世界で活躍するような企業もたくさん誕生している街でもあるということと合わせて、全国、あるいは世界から注目されるようなところまでぜひとも組立てをしていただきたいと思っております。

そんな中で、私たちも何ができるかと思うと、私は飲食に携わっている人間でございますので、全国から、世界から来られたお客様に飲食でお楽しみいただくところを作り出して行きたいと思う1年にしたいです。大河ドラマ館のご希望のご来場数が50万人という、少し少なめかなというご提示は、コロナ禍ということもあってだと思っておりますが、僕は何百万人来られるぐらいの魅力が浜松にはあるのではないかと考えています。私は家康プロジェクト推進協議会の食の分科会の会長も命じられておりますので、家康公の浜松時代、29歳から45歳までの健康を支え、そして平和を作ったという、健康と平和というテーマを持った浜松の食の魅力の開発をしていきたいと思っております。浜松へ来て食べていただくと、どんどん健康になり、平和をつくれる、そして出世する、そういった力をここでもらえるということも伝わるように、組立てをしていけたら、皆さまがお作りいただいているところに、お力添えできるのではないかとと思っておりますので、皆さまからのご意見、ご希望、ご要望をどんどんお聞かせいただきたいと思っております。

同時に、未来をしょって立つ子供さんが、家康公が浜松にいたぞということが誇りになるような意識付けもしていけたらと思っております。これは食を通じてですけれども、最初は弱かった家康公が浜松で強くなっていくというような、そんな展開にできないかなということも、模索していきたいと思っております。家康公が居た大事な17年間、家康公が残した歴史の遺産をできるだけ広げてわかりやすく、子供さんも、われわれ大人も誇りを持って浜松を発信し、たくさんの人たちに来ていただけるような取り組みにしたいと思っております。

(事務局 (観光・CP 課長))

秋元委員には食分科会をお願いしていますが、事業を進めるにあたりまして、官民連携の協議会を立ち上げております。「直虎」のときは初めてだったものですから、ホテルに集まって、市がやることを伝えるという情報提供の場だったのですが、今回は1年以上前から、食、街中、交通、誘客という4つの分科会を作りまして、それぞれごとに官民で一体となって、何をやるかということを検討してまいりました。

おそらくいろんな事業所の皆さんも、こういったことをやるともうかるといった話が、実際に見えてきていると思いますので、行政だけではなく、民間の皆さんと一緒にもうけていくということにつなげないといけないと思っております。すみませんが、先ほどご説明を省略しましたので、補足させていただきます。

(小田切克子委員)

私も大河ドラマ大ファンなので、今も楽しく拝見させていただいているのですけれども、2つ質問をさせていただきます。

1つは、浜松は新幹線の駅があるので、ぱっと来て日帰りで帰ってしまう方が多いように思います。二俣や井伊谷にしても、日帰りで回れないこともないとなると、お金を落としていってもらうためには、いかに泊まっていってもらうのかというのが大事だとおもいますが、宿泊に関してどういう誘因をされていますでしょうか。

もう1つは、大河ドラマファンに関して、若干ファンの年齢層が高いのかなという気がしてまして、XRとか若者向けのコンテンツを作ってもらっているのですが、やはり10代、20代の方が来ていただかないと、効果が半減してしまうのかなというところがあるので、若者向けにどういう魅力発信を考えていらっしゃるのか。この2点をお聞かせください。

(事務局 (観光・CP 課長))

まず宿泊の関係ですが、小田切委員のおっしゃるとおり、泊まっていたかかないといけないうことで、このエリアを回っていただき、ここに泊まっていたかかないといいうことで遠州広域マップを作りました。それから、今、旅行会社の方に、宿泊とセットで泊まっていたかかないという宿泊旅行のセールスをかけております。一般的なドラマ館の開館時間は5時までですが、本市では6時まで開館しています。そこから延長し夜間にイベントを開催して、泊まらざるを得ないというようなイベントを展開していこうと考えております。東京から新幹線が着く時間では集合時間に間に合わない時間帯でのイベントを開くなど、泊まっていたかかないような仕掛けをしていきたいと思っております。

それから若い方への訴求の部分ですけれども、Twitter、YouTube、TikTokを活用したプロモーションを行っております。そういったところで、これからご案内をさせていただきます。また、どうしても松本潤さんに注目してしまうのですけれども、実は「鎌倉殿」がそうだったように、主役が段々変わっていくんですね。そういう意味で言いますと、先日もお越しいただきましたが、今20歳の井伊直政役の板垣李光人さんは、本当に声援が聞こえてくるようなオーラがあり、また、本多忠勝役をやっている山田裕貴さんも若者にすごく人気がありますので、そういった方たちをうまく使わせていただいて、若者に訴求をしていきたいと思っております。

(早野亜希子委員)

私も同じようなご質問ですけれども、先ほどドラマ館を回らせていただいて、小さな子供さんへの訴求力がちょっと弱いのかなと感じました。私も小学生の子供がおり、チケットも小学校でいただいたので、連れていきたいと思っております。

果たして彼らがもう1回来たいと言うだろうかということ、やはりちょっと難しい内容にはなっているものですから、子供たちが地域の歴史や人物に興味を持つきっかけとなるような、楽しい企画やイベントが補助的にあるのかどうかということをお聞かせいただければと思います。

(事務局(観光・CP課長))

子供たちへの訴求について、浜松の未来を背負っていくお子さんたちに、家康公を知っていただくというのは非常に重要と思っております、今回企業の皆さんに協賛をいただきまして、チケットプレゼントをさせていただきました。また、学校の方でも団体でお越しいただくということも企画いただいているようでございます。どうしても子供たちにとって家康公はあまり人気がないようで、伊達政宗とか、石田三成とか、散っていったような人たちがすごく好きなようですから、今回松本さんが演じていますので、段々とじわじわと子供たちにも、家康公が近い存在になってくるのではないかなと思っております。

また、今年度、静岡銀行さんにご協力いただき、キッズプロジェクトでアナウンスをして、子供たちが地域を案内していただくということも行っていました。ランドオープンを迎えたら子供たちが街中を体験してドラマ館に来るなど、子供たちがドラマ館を楽しめるといったことをやりたいと思っておりますし、また、ここでないともらえないみたいな仕掛けも今後展開してまいりますので、期待していただければと思います。

(小林淑恵委員)

私も欠かさず大河ドラマ見ておりますので、非常に楽しく拝見いたしました。静岡市と浜松市がライバル関係にあり、それで連携をしないのかなと思ったのですが。私は実家が静岡ですので、あちらの大河ドラマ館と歴史博物館を見て来ようかなと思っておりますけれども、これが浜松の大河ドラマ館とペアチケットになっていないと感じたんですね。2つの都市を巡るというコースがあれば、必ずどちらかに宿泊すると思えます。浜松の細かい所を見て歩くのも確かに楽しいですけれども、大きな都市を2つ回れるというのも、これもまた魅力だと思うんですね。先ほどの説明資料を見て、いろいろな市と連携しているという中で、静岡市が入っていないので、あまり連携しないのかなという点が気になった次第です。

(事務局(観光・CP課長))

今回ドラマ館を岡崎、静岡、浜松で3つ造るにあたり、私は岡崎と静岡へ行きて、お互いライバル関係で足を引っ張り合うのはやめよう、3市がしっかり連携して盛り上げて行こうといったお話をさせていただいて進めてまいりました。資料に載っていないのは、3市は当然のことという意味で載せてございません。連携会議も定期的に行っておりまして、ドラマ館の展示も全く異なるものにしましょうということなども調整しています。

当初、共通チケットを作りたいということで調整をしていたのですが、運営事業者が3市とも違っていて、どのように配分していくかということが、調整がつかない状況です。しかし、愛知県や岐阜県とも一緒になりながら、3館に加え、関ヶ原の古戦場の4つを回ると武将印がもらえるようにといった取組も始まっております。浜松は真ん中にあり、一番泊まってもらいやすくなる所だと思いますので、3館全部巡っていただくといった企画を今後展開してまいります。

(笹原恵委員)

大河ドラマのファン、あるいはアイドル、ジャニーズのファンの方々はもちろん大事

だと思うのですけれども、大河ドラマですと歴史ファンの方々も増えて、非常に注目を集めると思います。大河ドラマ館を見たときに、確かに上に浜松城はあったものの、あまり浜松城との関連というのが打ち出されていないように見えまして、その辺りが気になりました。

先ほどペアチケットという話がありましたけど、果たして大河ドラマ館をご覧になった方々が、そのまま浜松城へ行くのかどうかということは、検討する必要があるのかと思いました。今日はお店は見せていただかなかったのですけれども、浜松市のコンセプトとして地元のをメインに置いているというのは、非常に素晴らしいと思います。建物内に観光マップや観光案内所はありましたが、浜松の中心市街地の方に行くとか、その辺りにもうちょっと何か仕掛けを作って誘導する良いかと思いました。もう一つ、私は文化財関係の委員をさせていただいてまして、いわゆる歴まち法の関係で、浜松城公園エリアをどういうふうに、アフター大河ドラマを見据えて造っていくのかということ、また、先ほどご案内があった二侯城、それから蜷塚遺跡もありますので、外から来る方々にも、子供たちにも、浜松の歴史を学ぶ機会や、知るという機会を考えると、浜松城は、まさに戦国期の家康期の文化財関係で、蜷塚遺跡は縄文の資料がメインなのでどれだけそちらに引っ張って行けるか分からないのですけれども、うまく文化財関係としてもつないでいただくのはどうだろうと思います。

あと、浜松は家康の散歩道を造っていらして、今回の大河ドラマにも随分関係すると思うのですけれども、その辺りもいまひとつ、今日は私の見方が悪かったかもしれないかもしれませんが、大河ドラマ館の中からはそちらの方に散歩に行くみたいなのはあまり感じられなかったようですので、そういうつなぎ方というのを何か工夫なさっているのかなということや、もしまだであれば、少しそちらの方に視点を入れていただいたらどうかと思います。

(事務局(観光・CP課長))

今日は私の案内が、時間の制約もあったのでできなくてすみません。実は笹原委員がおっしゃるような、歴史を知っていただくというのは非常に重要でございまして、大河ドラマ館のインフォメーションに、そういった散歩道であったりとか、地域の歴史に触れていただくとか、家康でも例えば鈴木家の話であったりとか、中村家の話であったりとか、ドラマに出るか出ないか分からないようなところまでご案内するようなゾーンを、インフォメーションセンターに拠点をもちまして、併せてWeb等での配信ということをやっております。

ドラマ館につきましては、レギュレーションがございまして、ドラマ館の中は大河の展示しかできないものですから、地域の歴史はご紹介できないのですけれども、その分インフォメーションなどで補完していきたいと思っております。

それから共通チケットにつきましては、すでにドラマ館と浜松城の共通チケットを販売しておりますので、だいたい皆さんお越しになりますと両方を回っていかれますので、地域の歴史というのをしっかり発信していきたいと考えております。

家康の散歩道につきましても、1月8日の出陣式について、散歩道を回ったら追加観覧チケットプレゼントという出陣式再チャレンジ企画をやりましたら、期間中かなりの人が散歩道を回られたようです。散歩道を巡っていただきながらドラマ館に来るとか、駅のインフォメーションセンターから、五社神社などを回りながら散歩道経由でドラマ館に来るといったツアーも作っておりますので、まさに散歩道は、フル活用していくという予定でございまして。

(秋元健一委員)

女性の委員からたくさん意見が出ておりましたけれども、特に早野委員がおっしゃっていた、子供たちがあの空間にずっといられるかということ、やはり大人にとって楽しい場所づくりとなっていると思います。ドラマ館の中は無理ということは理解していますので、家紋がある広場の辺りでいつも子供が遊べるみたいな展開は良いなどお話を聞いていて感じました。例えば浜松市がお持ちの子供の甲冑体験ができるとか、戦国の歴史を身近に味わえ子供たちの意識に残って、家康という存在が心の中に入るような想い出づくりをぜひ希望します。よろしくお願いします。

(事務局(観光・CP課長))

広場をうまく活用していくと、いろんなことができると思いますし、体験コンテンツも結構作れるなど思っていますので、子供向けのものも検討してまいります。

(鈴木真由美委員)

私も早野委員と秋元委員と同じことを思いまして、自分もこの家康が始まってから、昔から読もうと思っていた山岡荘八の「徳川家康」全26巻を退職してから読もうと思っていましたが、これを機会に読むようにしました。なぜかと言うと、経営者のバイブルと言われていたので、この現役時代に読むことが一番大切と思って、今頑張っている最中です。そんな中で、自分は今この年になって、ようやく歴史に目覚めてきました。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」と言いますが、自分もこの年になってやっと歴史に触れてきて、なぜもっと早くから歴史について、もっともっと小さいときから触れられなかったんだろうって、今更ながらすごく思います。早野委員と回りながら、大人にとってはプレオープンの展示は良いと話していましたが、グランドオープンからどのような企画が始まるかというのは、先ほども秘めたことがあるとおっしゃっていましたので、教育委員会などともコラボしながら、浜松市に住む子供たちにも、早くから歴史を好きになってもらうような良い機会になれば良いと思いました。

本当に今回は、歴史に触れる機会という意味で、浜松に大変良い風が吹いていますので、ぜひ私も子を持つ母親として、今秋元委員がおっしゃっていただいたような使い方を楽しみにしております。

(市長)

子供が関心を持つようないろいろ工夫が必要だけれども、子供だましになっては駄目だと思います。僕は小学校1年生のときに第1作目の大河ドラマ「花の生涯」から大河ファンになって、ずっとほぼほぼ全部見ているので、歴史もすごく好きです。小学校1年生でもかなりのことは理解できるので、子供をあまりそういう意味ではばかにしてはいけません。関心を持つような仕掛けは必要だけれども、あまり子供だからこうみたいな形でやる必要はないと思います。当時は8時ではなく夜遅く、この日だけは良いだろうって、親と一緒に見ていましたけど、あれからずっと、私も小学校1年生から大河ドラマを見続けていますので。小学生になれば、そういう感受性はちゃんと持っているの、そこは信じてあげた方が良いと思います。

(事務局(観光・CP課長))

うまく入口を作りながら、実際の歴史の深みに触れていただくような仕掛けをしていきたいと思っています。

(鎌田裕子委員)

大河ドラマで浜松に焦点が当たるというのはすごくチャンスだと思います。「直虎」のときもそうでしたけど、これをその時だけで終わらず、短期的な計画、中期的、また

長期的というような視点でも、対象者も含めてさまざまな企画をして、これをチャンスとして今後の浜松発展のために生かさないわけにはいかないと思っていますので、まだまだ企画があると信じていますので、よろしくお願いします。

(事務局 (観光・CP 課長))

私としては、「直虎」にしても「家康」にしても、出世の街をずっと続けて来たその通過点の中に大河ドラマが入って来ていると思っています。やはりこの地域の出世のストーリーというのは、世界に誇れるような物語だと思っていますので、それを継続的にやって行くことが、家康につながって行くかなと思っていますので、頑張ります。

(秋元健一委員)

私どもは飲食店を経営していますけれども、飲食店からの波及は、計り知れない力を持っていると思うんですね。何千店もございますので、大河ドラマ館や浜松城に来るお客様に家康公がここにいたというところをリアルに感じられる発信を飲食店の皆さんができれば歴史ファンの幾多のお客様が必ずリピーターになると感じています。ですので、ぜひ浜松の場面がドラマに出て来るタイミングで、決起集会のようなさあ始まるぞ!といった機運醸成のタイミングを作っていただけたらなと思います。お店の人たちは結構重要だと思うので、そのタイミングがあるとありがたいです。

(伊藤充宏委員)

大河ドラマですけれども、本当に静岡地区だけが視聴率が非常に高く、全国的に見ても関心が高いということがよく分かります。蛇足ですけれども、日曜劇場もその後切り替えていただいて、しっかり見ていただければと思います。これまでのところ、今日もドラマ館は満員で、作戦は大成功だと思うんですね。ただ、1つだけ言えるのは、大河ドラマは1年で終わってしまう。これはいかんともしがたいところですからプロモーションも、タイムスケジュールを持っていった方が良く思うんですね。今はともかく集まってもら、注目してもらということでやっていって、3月は舞台が浜松に、中盤を越えて最後に入って行く、その後は何をレガシーとしてしっかり残していくのかということが大事だと思います。出世の街なんでしょうけど、じゃあ何で出世の街なんだということでもあるし、食べ物もそうだと思うんですけど、深掘りをしていかないと残っていかないような気がするんですね。

それと今日見せていただいて、1点思ったのは、子供だましじゃいけないということがありましたけど、歴史ですので、分かっていることと分かっていないことを表すことが必要です。それから重層的に建築物はあるものですから、それをちゃんと立体的に見せること。私が今日見て面白かったのは、二の丸御殿の端の石積みと井戸で、ああいう所はしっかり分かっている部分です。少し言いにくいですけど、浜松城の復元したものにどれだけ歴史的なものがあるのかも表せれば。今はどこもそうで、別に良いのですが、ただ、どこまでは本当に分かっていることで、どこまでが分かっていないということ、しっかり表していくのかなということが必要です。石積みもそうですし、井戸もそうですし、瓦もそうですけども、リアルの形で見せていただけるということになると、人が集まって来るのかなというふうに思いました。

これは皆さん言っていますけど、子供の教育の中で、地元のヒーローをどういうふうな形で誇りとしていくか、地域を誇りとしていくかということの教育も、学校では必要かと思います。

(事務局 (観光・CP 課長))

今回の大河の関係というのは、われわれ観光の分野でもやっていますが、教育だっ

たり文化だったり、いろんな部署が活用できるものですし、われわれとすると全庁体制で取り組んでいくということで進んでまいります。まさにそういった地元の歴史について発信する機会でもありますので、そこは一体で取り組んでまいりたいと思います。

(藤崎淳委員)

本当にこのイベントは多くの方が来るイベントになってくるかと思います。そういった中で、地元では車で来たりとか、これから暖かくなってくると、オートバイで来たりする方が多くなってくると思います。ドラマ館付近は、常に車の渋滞も多い中で、もちろん交通機関というのは使えると思いますが、そうは言ってもたぶん自転車の方が多くなるので、そういったところへの施策もお聞かせいただきたいと思います。

(事務局(観光・CP課長))

駐車場は、ドラマ館を造った段階から非常に大きな課題でして、桜の時期などがそうですが、大渋滞になってしまって、生活道路に入ってしまうという部分もあります。ですので、今回は誘導としては、街中の提携駐車場に止めていただくということでお願いしています。割引券を出し、そちらに止めていただければ、街中も周遊していただくといった形になりますので、ぜひとも街中の提携駐車場に止めていただきたいと思います。その辺のアナウンスもしっかり継続していきたいと思っております。

(藤崎淳委員)

バイクもあるということで、駐輪場も増やしていただいているといったところは分かりますので、どこに止めたら良いか迷っていると事故にもつながってしまうので、そういった明確さも今後分かるようにして行くと、よりいろんな人が来られるのかなと思いますので、よろしくをお願いします。

(大場司委員)

先ほど若い人たちの誘致をどうするかという話がありましたけれども、私は浜松へまいりまして思うのは、「出世の街」というところの「出世」という言葉なんですけれども、われわれ昭和生まれの人間は、出世というと立身出世という意味で、響くところもないわけではないですが、今の平成生まれの若い方々たちは、出世と言われても何のことを言っているのか、生き方や価値観に照らして、出世という言葉がどれだけ響いているのかなというのは、すごく感じる場所です。ですので、もう少し若い人向けのワーディングを工夫するというのも必要なのではないかと思います。ドラマを見ていけば、出世という意味が分かって行くだろうとは思いますが、そういう方向も考えてみたらどうかなと思いました。

あともう1点、家康公ゆかりの地との連携や他の自治体と連携ということでは、私どもの新聞の発行エリアがほとんど含まれていますし、あと静岡新聞さんもそうですが、いろいろ地方紙と連携をしていますので、そういった所と一緒に家康公を取り上げていくような、新聞の紙面連載などといった形でお手伝いできるかなと思っています。

(市長)

良いご指摘をいただいたと思うんですけども、私がいつも申し上げているのは、出世というのは必ずしも地位が上がるということだけを指すわけではなくて、志を遂げるということが実は大事なんだと考えています。家康公ももちろん天下平定をし、天下人になったわけですけども、一番大事なものは、戦がない世をつくるという部分です。平和の世をつくるというのが、家康公の大きな志でありそれを実現したということが大きかったということで、この出世の意味には、もちろん地位が上がるということもありますが、志を遂げるという、この部分をしっかり訴求をしていかなければいけな



いと思っています。

(小名木秀雄委員)

私もこの大河ドラマというのは、小さいときに見たのは覚えがあるんですけど、このドラマは見ております。録画してみると人間ずるくなるものですから、その時間にと  
いう形で見ておまして、土曜日は土曜日で再放送という形で興味深く見ております。  
浜松八幡宮のすぐ東側に住んでいるわけですが、地元の自治会としてもその  
宮司さんといろいろ話をさせてもらおうと、参拝客が非常に増えていると聞きました。  
報道でも放送されるというような形で、非常にお宮自体も元気になっているとよう  
です。

しかし、先ほど藤崎委員からありましたように駐車場の問題が一番困ったということ  
でして、人が増えたは良いが何をやったら分からないというような、頭を抱えている  
ところもありまして、交通量が増えてきているというのも現状です。

しかし、にぎやかになることは非常に良いことですから、ドラマ館ののぼり旗は出  
ておりますけれども、それに関連する五社神社などのいろんなものの案内版も分かりや  
すいような形であったらよいと思います。東照宮などについても、外から来た人でも  
ぱっと見て分かりやすいような案内版を、グランドオープンに向けてお願いをしたい  
と思います。

## 2 デジタル田園都市国家構想と総合戦略

(事務局から資料に基づき説明)

### ◆デジタル田園都市国家構想と総合戦略

## 3 2023 年度事業

(事務局から資料に基づき説明)

### ◆第 2 期浜松市“やらまいか”総合戦略 2023 年度事業

## 4 閉会

(事務局（企画調整部長）)

それでは、4 月に任期満了を迎えるあたり、市長から一言ごあいさつをお願いします。

□市長挨拶

(市長)

本当皆さん、大変お世話になりましたありがとうございます。私の任期は 4 月 30 日  
まででございます。あと 2 カ月少々でございますけれども、浜松市のこの計画、ある  
いは市政運営というのは継続をしていくものですので、しっかり次の方にも重要なこ  
とは引き継いで行きたいと思っておりますし、すでにそうした取組を始めており、そういう  
意味では連続性を持って行けるのではないかと思いますので、引き続き皆さまにも市  
政を盛り上げていただきたいと思います。

市長は退任しますけれども、隠居するつもりは毛頭ございませんので、別の形でまた  
地元へ貢献をして行きたいと思っておりますので、引き続きまた、ご指導、ご鞭撻を賜りま  
すようお願い申し上げます。本当に長い間ありがとうございました。

(事務局（企画調整部長）)

ありがとうございました。

以上で、本日の会議は終了となります。活発なご意見、ご質問ありがとうございました。  
皆さまのご意見を踏まえまして、さらに頑張って行きますのでよろしくお願

たします。

今回の会議の議事録につきましては、後ほど文書にて皆さま方にご報告させていただきますのでよろしくお願いいたします。

これをもちまして、第2回浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。